

がつ ぎょうじよてい 3月の行事予定

にちようび 日曜日	げつようび 月曜日	かようび 火曜日	すいようび 水曜日	もくようび 木曜日	きんようび 金曜日	とようび 土曜日
1 ・土居隣保館まつり (作文発表・バザー 一等)	2 ・卓球 ・囲碁	3 ・子育て勉強会 ・フォークダンス ・卓球 ・スマイルキッズ	4 ・子育て勉強会 ・囲碁 ・スマイルジュニア	5 ・貯筋体操 ・パソコン ・子ども英語教室	6 ・卓球	7 ・囲碁
8	9 ・周辺地域巡回 事業 ・卓球 ・囲碁	10 ・各種相談日 ・子育て勉強会 ・フォークダンス ・卓球 ・スマイルキッズ	11 ・子育て勉強会 ・囲碁 ・スマイルジュニア	12 ・ふれあい喫茶 ・パソコン ・子ども英語教室	13 ・卓球	14 ・囲碁
15	16 ・卓球 ・囲碁	17 ・中学校卒業式 ・子育て勉強会 ・フォークダンス ・卓球 ・スマイルキッズ	18 ・子育て勉強会 ・囲碁 ・スマイルジュニア	19 ・貯筋体操 ・パソコン ・子ども英語教室	20 春分の日	21 ・囲碁
22	23 ・卓球 ・囲碁	24 ・小学校卒業式 ・子育て勉強会 ・フォークダンス ・卓球 ・スマイルキッズ	25 ・子育て勉強会 ・囲碁 ・スマイルジュニア	26 ・貯筋体操 ・パソコン ・子ども英語教室	27 ・卓球	28 ・囲碁
29	30 ・小・中学校 離任式 ・卓球 ・囲碁	31 ・子育て勉強会 ・フォークダンス ・卓球 ・スマイルキッズ				

あさひぶんかかいかん
朝日文化会館
か い か かん

あさひぶんかかいかんれんらくさき
朝日文化会館連絡先
じゅうしょ しこくちゅうおうしみしまあさひ ちょうめ ばん ごう
住所：四国中央市三島朝日3丁目5番30号
TEL：28-6070
FAX：28-6104

会館だより
だい ごうれいわ ねん がつごう
第443号令和2年3月号



あさひぶんかかいかん がいかん
【朝日文化会館の外観】

【お知らせ】

- 土居隣保館まつり（作文発表、バザー等） 3月1日（日）10時～、土居隣保館
- 周辺地域巡回事業 3月9日（月）16時～、三島地域
- 各種相談日 3月10日（火）10時～
人権相談、生活相談、困っていること、何でも話に来てください。一緒に考えます。
- ふれあい喫茶（百円モーニング）要予約 3月12日（木）9時30分～
- 市内中学校卒業式 3月17日（火）、三島東中学校 他
- 市内小学校卒業式 3月24日（火）、松柏小学校、三島小学校 他
- 市内小・中学校離任式 3月30日（月）、松柏小学校、三島小学校、三島東中学校 他

朝日文化会館 人権フェア

令和2年2月7日から3日間、朝日文化会館人権フェアを開催し、7日に人権・同和教育講演会、8日、9日に小中高校の児童生徒の人権ポスターの展示を行いました。

2月7日(金)19時から、愛媛県人権教育協議会代表幹事の村上進さんをお迎えして、「人権文化を創造し、育む町づくり～ハンセン病問題からのアプローチ～」と題し、ご講演いただきました。

講師の村上進さんは、昭和51年に一人の少女に出会い、人権・同和教育を生涯のテーマとされました。そして、NPO法人プロジェクト2008を仲間と立ち上げ、同和問題、ハンセン病問題を中心に、あらゆる人権問題の解決に、長年取り組まれています。

講演では、西条市の元ハンセン病患者の松本常二さんの「孫や甥が私のおじいちゃんにはハンセン病だったと言えるふるさと西条を作ってほしい。」という願いを聞き、本人を受け入れるために、個人だけが変わるのではなく、ふるさとが変わる取り組みを行ったことを話されました。

ハンセン病に対する差別を構造的に捉え、いかに正しい認識が必要であるか、実践を通して示されました。

1. 法的差別
・完治する病気だったが強制隔離政策をとった。
・法律「らい予防法」の存在そのものが差別を作っていた。
2. 社会的差別
・無らい県運動により、地域社会によって偏見や差別が助長された。
・実名が名乗れない人々がいる事実がある。
3. 個人的差別
・無知、無関心がよそごとと捉え、偏見や差別を生んでいる。

以上3点から、人権問題や課題に対して、無知、無関心、あるいは核心から逃げている自分に気づき、正しく認識し、我がごととして捉える教育啓発が必要である。

部落差別についても、自分の立ち位置が分からず特別な問題にして、自分とは関係がないと思ってしまう人が多い。正しく学び我が事として捉えることが大切である。

最後に、「出会い」に真剣に向かい合う姿勢が大切で、差別を断ち切ることができるのは、伝え、受けとめ、つながっていく「人と人とのつながり」しかないと話されました。

三島東中学校

人権啓発街頭ティッシュ配布活動

令和2年2月11日(火)の建国記念の日に三島東中学校の生徒と保護者、教職員等、62名が三島地域の商業施設7か所に分かれ、人権啓発街頭ティッシュ配布活動を行いました。

この活動は、三島東中学校の生徒が人権教育を学び、差別をなくすために自分たちができることを考え自主的に行っている活動です。また、当日配布したポケットティッシュには、東中生徒が差別を許さない学校づくりを目指し、人権について自分たちで考え、行動する『東風有志の会』が作った人権啓発チラシを折り込み、一つ一つを手渡しし、差別解消への活動の思いを伝えました。

今回初めて参加した1年生は、最初は緊張し、手渡しするタイミングすら取れずでしたが、昨年も参加した先輩の差別を許さないという思いを伝える姿を見て、少しずつ自分の差別を許さない気持ちを伝えることができるようになっていました。



こんにちは！三島東中学校です。私たちはこれまで、同和問題をはじめ、様々な人権問題の解決をめざして、学び合い、互いに思いを高めてきました。そして今年度、差別を許さない学校づくりを目指し、人権について自分たちで考え、行動する『東風有志の会』を立ち上げました。この「人権啓発街頭ティッシュ配り」などの啓発活動を通して、私たちが暮らす地域に、差別解消の思いをさらに広げていきたいと考えています。皆さんも私たちと一緒に、人権について考えていただませんか。

三島東中学校『東風有志の会』 ～差別をなくすために、私たちにできること～

- 「自分さえよければいい」という考えをなくす。
- 誰に対しても、目を見て気持ちのいいあいさつをする。
- 自分の行動を振り返り、自分や周囲の人を大切にする言動を心掛ける。
- 素直な気持ちを忘れず、相手の思いを前向きに受け止める。
- 人の悪口や陰口、無責任なうわさ話をしない。安易に信じない。
- 相手の気持ちを精一杯考え、相手の立場に立って行動する。
- 自分だったらどう思うか、どうするかを考えながら生活する。
- 自分の思いを伝える努力をする。授業などで積極的に発言する。
- 自分の意志で行動し、自分の言動に責任をもつ。
- 正しい知識を身に付け、いじめや差別を見抜ける感覚を磨く。

三島東中学校から 地域の皆様に伝えたいこと

差別を「なくす」自分になる！
みなさんは、「自分には関係ない」「差別なんかしていない」「差別なんてない」と、差別から目を背けていませんか？私も以前はそうでした。でも、差別は今も身近にあり、残され続けているのが現実です。「差別は、なくそうしなければいけません」と、学習することを知りました。差別をなくすために、がんばらなければいけません。行動しなければいけません。差別を「残す」自分にならないために、自分自身と向き合い、自分の身近にいる人たちとも、向き合っています。

同じ思いの仲間とつながる
今年度、東中学校では、「東風有志の会」という団体をつくりました。これは、差別解消のために、自分たちで学びを深め、行動し、思いを発信していくための東中生有志による団体です。そして、今年度はこの会のメンバーで人権劇をつくり、上演しました。テーマは、「思いのつながり」です。私たちは、差別をなくすための学習を通して、差別を許さない自分、差別をなくせる自分になりたいという思いを高めてきました。それは、「自分にとって大切な人を、差別する側にしたくない」という思いにつながります。正しいことを学び、学んだことを伝え合うことで、身近な人と同じ思いでつながる。そうやって、差別を許さない仲間のつながりを広げていきたいと願っています。

誰もが笑顔で過ごせる社会に
差別される人がいるから、差別があるのではありません。差別する人がいるから差別があるのです。そして、差別を許してしまう人がいるから、差別がなくならないのです。一人ひとりが差別する心をなくし、差別によってつらい思い、悔しい思い、苦しい思いをする人をなくしたい、なくさなければいけません。これが私たち三島東中生徒の願いです。私たち一人ひとりは、必要とされる大切な存在です。だからこそ、誰もが笑顔で過ごせる社会にしたいです。